

(一社)鹿児島県中小企業診断士協会
令和5年度 会報

第24号

令和6年2月22日発行



< 事務局 >

鹿児島市紫原2丁目7-1-105

sindankagoma@gmail.com

《 目 次 》

☆ 会長あいさつ 今別府 忍	p 02
☆ 令和5年度 活動報告（担当理事）	
◇ 総会・懇親会（今別府 忍）	p 03
◇ 理論政策更新研修（森 毅憲）	p 04
◇ 会員研修会（福岡 正人）	p 05
◇ 秋のゴルフコンペ（今別府 忍）	p 06
◇ 診断士の日イベント2023「伴走支援 コーチング入門」（瀬戸口 晴子）	p 07
◇ 令和6年 新年会・kintone 研修会（瀬戸口 晴子）	p 09
☆ 新入会員 自己紹介	
◇ 「自己紹介とご挨拶」 矢野 真吾	p 10
◇ 「自己紹介とご挨拶」 前堂 恵斗	p 11
◇ 「くまもと森都心プラザビジネス支援施設 XOSS POINT.について」 岩崎 雄司	p 12
◇ 「自己紹介とご挨拶」 東郷 浩泰	p 14
◇ 「ご挨拶と抱負」 嶋崎 浩二	p 14
☆ 会員寄稿	
◇ 「明るく！前向きに！元気よく！」 岩元 耕児	p 15
◇ 「いよいよ始まる！鹿児島県協会のDX元年」 向江 隆行	p 16
◇ 「鹿児島の優秀な人材の流出を止められないか」 鮫島 省吾	p 17
◇ 「見える化は改善の第一歩」 奥 浩昭	p 19
◇ 「セミナーコンテストグランプリへの出場」 武田 清孝	p 20
◇ 「地震予知は当たらない」 浦島 和衛	p 21
◇ 「オススメ新スキル第2弾！稲盛アカデミー 経営哲学講座」 瀬戸口 晴子	p 23
◇ 「GX 推進と省エネ」 久留 正成	p 25
◇ 「令和6年 年頭雑感」 黒坂 和民	p 26
☆ 令和6年度 活動予定	p 28
☆ 会員名簿（2024/2/20 現在）	p 28
☆ 編集後記（瀬戸口 晴子）	p 28

（ 会員寄稿：掲載順不同・敬称略 ）

会長あいさつ

会長 今別府 忍

鹿児島県中小企業診断士協会の会員の皆さまには、平素から協会活動の推進にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

令和5年6月に中小企業庁から「経営力再構築伴走支援ガイドライン」が発表されました。伴走支援とは、簡単にいうとコーチングの手法である傾聴と質問などを使って事業者の考えを引き出すことで、事業者に当事者意識をもって取り組んでいただけるように支援することです。

当協会では、従来からコーチングスキルの向上を重視してきました。昨年8月の理論更新研修では「経営力再構築伴走支援」をテーマの一つに取り上げ、10月の診断士の日のイベントではコーチング研修を開催し、多くの会員にご参加いただきました。会員の皆さまが、学んだスキルを実践の場で発揮されることを期待します。

「コーチング」の次に必要なスキルは何でしょうか、個人的には「問題解決」ではないかと考えます。トヨタによると、問題解決力は「改善」だけでなく「革新」にも力を発揮するとのこと。問題解決スキルは、大企業、特に製造業出身の方は身につけていると思いますが、体系だっで学んだ方は少ないのではないのでしょうか。支援者がこれら2つのスキルを使って事業者の問題解決を図れば多くの経営課題は達成できると考えます。究極的な目標は企業に問題解決力を定着させ「自走化」していただくことです。

中小企業診断士は、常にクライアントへのアウトプットが求められますが、並行してインプットも欠かせません。協会としては、引き続きスキル向上のための研修会に注力してまいりますので、会員の皆さまにおかれましては積極的なご参加をお待ちしています。



<< 令和5年度 活動報告 >>

※ 各担当理事 執筆

【 総会 & 懇親会 】

令和5年5月27日(土)、「第12回 定時総会」をアクアガーデンホテル福丸で開催しました。会員44名中、出席者 39 名(参加20名、委任状および議決権行使書19名提出)で成立しました。第1～2号議案ともに、全員賛成で承認されました。



懇親会では参加者21名全員の近況報告を行うなど情報交換を行いました。

2次会は、B.B.13BAR にて有志10名で中小企業支援のあり方などについて熱く議論しました。

(今別府 忍)



【 令和5年度 中小企業診断士 理論政策更新研修 】

令和5年8月5日(土)、城山ホテル鹿児島(鹿児島市新照院町)のルビーホールにて、当協会主催による「令和5年度 中小企業診断士 理論政策更新研修」を開催しました。

今回は受講者88名参加で、のべ4時間にわたり、3つのテーマについて実施しました。研修内容は、① 九州経済産業局中小企業課課長の西下尚樹様に「新しい中小企業政策について」、② 株式会社奥山経営代表取締役の奥山慎次様に「中小企業の事業承継支援」、③ 当協会の向江理事に「中小企業の伴走支援」というテーマでそれぞれ講義いただきました。



いずれのテーマも各講師の特徴を活かした講義をして頂き、研修終了後の受講者アンケートでも、多くの方々から高い評価を頂きました。一方、オンライン受講の要望や資料の事前配布などのご要望もありましたので、今後の理論政策更新研修の運用にあたって参考にさせていただきます。(森 毅憲)



【 会員研修会 】

昨年度 最後の 第4回研修会は、令和 5 年 3 月 14 日(火)、「**事業計画策定におけるデータ活用事例**」をテーマに、長友会員が講師を務め、参加者数 11 名にて実施しました。「Instagramとキーワードプランナーを活用した市場分析」について、理解を深めることができました。いち早く ChatGPT の活用についても学びました。



今年度の 第1回は令和 5 年 6 月 24 日(土)、「**事業継続力強化計画の策定方法**」(向江理事)、「**林業支援の方法と留意点**」(浦島監事)で、8月公募事業の勉強会を兼ねました。第 2 回は 9 月 27 日(水)で、東郷会員による「**診断士によるスタートアップ企業の支援**」、および、南九州南西諸島域イノベーションセンターの中武貞文准教授による「**地元企業の成長を支える大学の使い方**」をテーマとして、参加者数 10 名にて実施。スタートアップ支援の実務や産学連携の方法について学びました。

第 3 回は診断士の日記念の公開イベントを兼ねた「**伴走支援のためのコーチング入門**」、第 4 回は新年会と同日開催で「**kintone 活用法**」を実施しました。(詳細は別記)

さらに今後、第 5 回として令和 6 年 3 月 26 日(火)に「**事業承継支援研修**」(今別府会長)を予定しています。開催場所は毎回、鹿児島市名山町の産業創出拠点施設「mark MEIZAN(マークメイザン)」を活用。研修後は近くの「名山堀」にて、学びの深化と情報交換の懇親会を実施し交流を深めています。多くの会員の参加をお待ちしています。



実施し交流を深めています。多くの会員の参加をお待ちしています。

(福岡 正人)

【 秋のゴルフコンペ 】

令和5年9月22日(金)、当協会会員の親睦を目的に、秋のゴルフコンペを開催しました。

<場 所> かがしま空港36カントリークラブ 空港コース
<参加数> 7名
<結 果> 1位 森 毅憲、 2位 山下 純二、 3位 今別府 忍

秋晴れの中、霧島山麓のチャンピオンコースで気持ちよく汗を流しました。
夜の懇親会ではベトナム料理を堪能しつつ、ゴルフ談義に花が咲きました。 (今別府 忍)



【 中小企業診断士の日 記念イベント 】

「中小企業パワーアップセミナー KAGOSHIMA 2023」

今年度は「伴走支援のためのコーチング入門 ～明日から実践！1on1コーチング～」と題して2023年10月30日(月)、鹿児島市のMark MEIZAN(マークメイザン)で開催しました。



A detailed poster for the seminar. The main title is '中小企業パワーアップセミナー KAGOSHIMA 2023'. The subtitle is '伴走支援のためのコーチング入門 ～明日から実践！1on1コーチング～'. The date and time are '10/30 MON 14:30~17:30'. The venue is 'mark MEIZAN'. The speaker is '講師：渡辺 日菜子氏'. The poster also includes a QR code and contact information for the organizing association.

講師は福岡県協会のコーチング研究会会長としてご活躍中の診断士兼コーチの渡辺日菜子氏。

公開イベントとして、会員以外にも商工会・商工会議所などの支援機関や金融機関、経営者、コーチングに関心をもつ社会人・学生まで広く対象(参加費無料)とし、協会公式サイトのお募りフォームから参加者を募りました。



広報活動としては、鹿児島県や鹿児島市・マスコミ各社・支援機関・金融機関等など県下17団体へ後援申請を行い告知・取材依頼をするとともに、県庁記者クラブへもプレスリリースとして配信、チラシを関係各所・図書館などの公共施設に広く配布・掲示し、中小企業診断士および当協会の**認知度&好感度アップ**を図りました。

地元紙「南日本新聞」〈みなみのカレンダー〉に募集告知を掲載していただき、MBCラジオ「かごしま街角通信」では 森専務理事がゲスト出演し協会活動やイベント内容をPRしました。

<10/9(月)・10(火)放送> https://blogs.mbc.co.jp/town/cat_news/4726/

イベント当日は**20～70代の36名**（うち女性8名・定員40名のうち4名が業務等でキャンセル）が参加し、**4～5名×8班のグループ**に分け、協会員と支援機関・金融機関ら同志とともに、コーチングの基礎概論や実務での活用事例を学びました。



後半は、実際に**ペアワーク・グループワーク**を通して、お互いに楽しく交流しながら実務能力を磨きました。平日午後の3時間という長丁場だけに2回の休憩時間を設け、**ティータイム**として茶菓を用意し、参加者同士が名刺交換など交流する機会も作りました。

参加者アンケートでは、**97%が「大変よかった」「よかった」と回答**、その理由として日常業務に活かせる様々な気づきや実践スキルを体感できたことなどがあげられました。

セミナー終了後は、**診断士協会員限定**でフレンチレストランにて 講師を囲んでの懇談会を開催し、中小企業支援のための具体的なケーススタディなど更に学びや交流を深めました。



同じ週に東京ガーデンパレスでの「中小企業シンポジウム」、翌週は佐賀での「ブロック会議」と出席予定の協会事業が集中し、担当にとっては結構ハードスケジュールでしたが、大盛況&好評のうちに無事終了でき、ホッといたしました。（瀬戸口 晴子）

【 令和6年新年会 & 第4回研修会 】

昨年、3年ぶりに開催した新年会から早くも1年、2024年1月27日(土)「城山ホテル鹿児島」(アイリス)において23名参加で開催しました。

新年会に先立ち、例年同様「会員研修会」を実施。第4回となる今回は、IT担当の向江理事を講師に、今後当協会でも導入を予定している「kintone」がテーマ。予算の事情でプロジェクターを手配できず、あろうことかDXセミナーを配布資料で行うという展開となりましたが、宴会を前に、PC持参不要&手軽に見比べたりメモしたりというペーパーの良さも感じつつ…(苦笑)



新年会では、新入会員の皆様に順次それぞれのキャリアや得意技など自己紹介していただき、全参加者の近況報告・情報交換など交流を深めました。



2次会は有志8名で天文館へ。今後の活動ビジョンなど語り合いました。(瀬戸口 晴子)



<< 新入会員 自己紹介 >>

令和4～5年中に当協会に入会された新入会員各位に、自己紹介も兼ねて、抱負や近況などご寄稿いただきました。和暦/西暦・半角/全角は各位の原稿を生かしております。(入稿順)

=====

「 自己紹介とご挨拶 」

矢野 真吾

2022 年秋の二次試験に合格し、2023 年 5 月に当協会に準会員として加えて頂きました矢野と申します。2023 年は鹿児島協会の行事にいくつか参加させて頂きながら、実務補習や実務従事を重ね、10 月によく登録に辿り着く事が出来ました。ようやく診断士としてのスタートラインに立った気持ちです。

現在私は民間企業に身を置いており、診断士としては兼業の許可を得て活動を行っている「企業内診断士」です。30 年以上前に新卒で入社したこの企業に於いて、これまで経営企画や経営管理などのスタッフ業務を通じ、大小さまざまな事業規模のグループ内経営者の事業運営における意思決定と実行のサポートを行って来ました。とくに直近では8年間ほど、弊社グループの子会社において、事業の絞り込み、ノンコア事業のカーブアウト、主力事業の強化のためのマネジメントチーム作り、次世代マネジメント人材育成等といった一連の事業再生テーマを社長二代にわたって並走しながら、まさに社長の壁打ち相手を務めている所です。

現在では、コロナ禍の副産物としてテレワークを活用し業務に当たれるチャンスも増えたため、高校卒業するまで生活し、いまでも家族が住む鹿児島市を本拠地としながら、月に1～2週間を東京品川(もしくは出張先)で過ごすワークスタイルが可能になりました。お蔭様で家族と過ごす時間が増え、また将来の拠点と考える鹿児島に身を置いてネットワークづくりを開始できるメリットを得た一方で、東京出張のタイミングでは鹿児島でのイベントに出席出来ない事になり苦慮する一面もあります。

とくに先日の「診断士の日」イベントはスケジュール上どうしても欠席せざるを得ませんでした。かねてより注目していたコーチングに関する内容という事もあり、大変残念な思いをしました。そうした経緯もあり、2024 年は一念発起し、コーチングのスクールを受講する事にしました。コーチングはコンサルタント業にももちろんの事、昨今悩みの多い家庭内でも活用できるスキル

として大いに期待しています。

2024 年は、このコーチングスキルの習得に加え、診断士として今年こそ1円でも売上実績を上げる事を目標に活動して参りたいと思う次第です。皆さま、今後とも宜しくお願い致します。

=====

「 自己紹介とご挨拶 」

前堂 恵斗

皆様初めまして。この度熊本支部から移籍してきました前堂恵斗(まえどう けいと)と申します。まだお会いできていない方も多いかと思っておりますので、簡単に私の自己紹介をさせていただきます。

私は平成2年生まれの33歳で、沖縄県出身です。令和3年に診断士登録し、沖縄支部に在籍しておりましたが、昨年、転職を機に熊本支部に移籍し、2カ月程過ごした後に鹿児島に異動してまいりました。

地元沖縄では長らく税理士法人に勤務し、税理士補助として中小規模のクライアントの税務・会計顧問を担当していました。その中で診断士の資格を取得し、その後は県の公的機関で事業承継の専門家として県内企業の事業承継支援に従事していました。

現在は再び元の業界に戻り、鹿児島市内の税理士事務所に勤務しながら、主に認定支援機関業務に従事しています。

昨年は初めて地元を離れ、新しい環境での生活に慣れるまで大変なこともありましたが、鹿児島の皆様に支えられようやく腰を落ち着けることができました。

元々鹿児島には縁もゆかりもなかった私ですが、ここに来て初めての電車通勤や冬らしい寒さも体験し、毎日が旅行気分です。鹿児島 Life を楽しんでいます。

まだ知り合いも少ないため、今年は研修会や交流会などにも積極的に参加し、診断士の先輩方とも交流を深めたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



「くまもと森都心プラザビジネス支援施設 XOSS POINT.について」

岩崎 雄司

令和5年に入会させていただきました熊本県在住の岩崎と申します。熊本県協会との重複会員になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

出身は熊本県八代市というところですが、その後はずっと父親の勤務の関係で九州各地を転々としてきました。鹿児島は幼少時に奄美大島の名瀬市に3年間、小学校6年から中学校3年まで3年間は鹿児島市内に住んでいました。多感な時期を過ごしたこともあって、自分では勝手に鹿児島が第二の故郷と思っています。

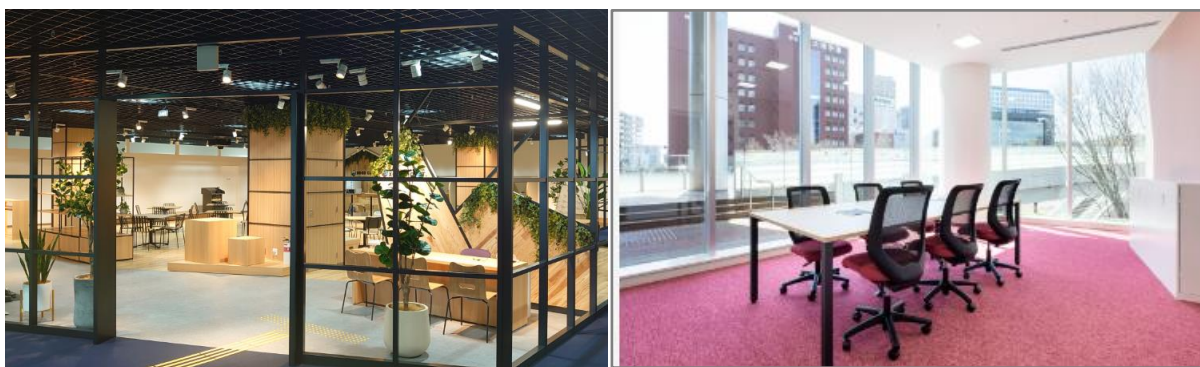
大学卒業後は熊本の地銀である肥後銀行に就職、約28年間勤務いたしました。別に悪いことをしたわけではないのですが51歳の時に退職し、経営コンサルタントとして独立いたしました。在職中に様々な資格を取得しましたが、結局金融がらみの業務からは逃れられず、自らの専門分野を「事業再生」と位置付けて現在に至っています。

今回は自己紹介を兼ねてということですので、現在の勤務先についてご案内いたします。独立したといっても、業務の大半はここでの勤務ということになります。新幹線が開通し鹿児島からも1時間で来られますので、ぜひ遊びに来ていただければと思います。（続く↓）



場所は JR 熊本駅の正面のビルになります。新幹線をご利用された方は、駅前の大きな建物（奥に 35 階建てのマンションがあります）をご覧になったことがあると思います。

受付を入るとすぐ、開放感あるメインフロアが広がります。テーブル席での各種相談やミーティングの利用のほか、中央ステージでは定期的にイベントを開催しています。その他、PC カウンターやカフェコーナーもご用意しております。このような環境で皆様のビジネスインスピレーション、より良いコミュニケーションを促進しご利用者の成長・課題解決をサポートします。



また、当施設の Small Office は、熊本駅直結、市電、バスなどの公共交通機関への好アクセス条件のほか、各種公共施設や商業施設なども周辺立地しており、充実した環境にオフィスを構えることができます（全 10 室）。また、ご入居者へは、主にインキュベーションマネージャー、コミュニティコーディネーター、メンターによる事業成長・拡大に向けたメンタリングを中心に、必要に応じて経営相談員・融資相談員とも連携し、入居者の要望に沿いながら交流会やワークショップ等についても開催しています。

さらに、「創業支援室」（全 6 室）では、創業を志す方や創業から 1 年以内の方を対象に、ビジネス支援施設職員及び中小企業診断士等専門家による助言のほか、定期的な勉強会に参加いただくことができます。創業から実際の経営に至るまでのノウハウを身につけていただきます。現在 12 期生が入居していますが、これまでに約 60 名の方が実際に開業し、その事業継続率は約 8 割の高さです。

まだまだご紹介しきれない様々な機能を有している施設ですが、運営上は私たちも手探りの部分が数多くあります。鹿児島県協会の方々ともいろいろな分野や局面で連携できることがあれば、と思っています。今後ともよろしく願いいたします。

「 自己紹介とご挨拶 」

東郷 浩泰

昨年5月に入会させて頂きました東郷浩泰と申します。高校まで鹿屋で過ごし、現在は東京に在住しております。これまでのキャリアとしては、上場企業にて経営企画や財務経理等を経験後、スタートアップ企業へ転身し、内部及び外部の立場から経営や経営管理等に従事して参りました。現在は、旧知の間柄である他土業の方々とも連携しながら、主に中小企業やスタートアップ企業に対する各種経営支援をさせて頂いております。これからは特に、事業承継(M&A)、PMI、事業再生、協業等の御支援に注力して参りたいと思っております。

鹿児島経済の活性化に寄与できますよう、これまでの経験や知識、人脈等をフル活用して地元企業の持続的成長に向けた経営支援に取り組んで参ります。また地方と首都圏企業等との橋渡しの役割も担えるよう尽力して参る所存です。更に世界で活躍できる鹿児島発スタートアップ企業の発掘や支援も出来ればと思っております。

これまでの人生、「運と御縁」で何とかここまでやってきました。これからも周囲への感謝の気持ちを忘れずに精進して参ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

=====

「 ご挨拶と抱負 」

嶋崎 浩二

会員の皆様、令和5年度に入会しました嶋崎浩二(しまざき こうじ)と申します。始良市在住です。出身は兵庫県ですが、鹿児島県には30年以上住んでいます。54歳(昭和44年生まれ)になります。平成22年に診断士を登録し、登録してからは、県の農業改良普及指導員として、農業者の経営支援や制度資金の融資支援などを経験しました。また、牧場の経営管理にも携わってきました。

好きなことは、桜島を見ながらのウォーキング(散歩)です。自宅からすぐの所に桜島を真正面に見ながら歩くことができる防波堤があります。そこで、桜島の雄大な姿を見ながら歩くと、心身に力が湧いてきます。

今後は中小企業診断士として、地域に貢献できるように努力していきます。協会の皆様との繋がりが大切していきます。どうぞよろしくお願い致します。

<< 会員寄稿 >>

(順不同)

=====

「 明るく！前向きに！元気よく！ 」

岩元 耕児

今年**は辰年**です。私の干支でもあります、昇り龍ということで、日本も九州も鹿児島も大きく羽ばたきたい所です。また新年早々地震等で被災された北陸地方のみなさま方の**早期の復興・再起**も強く願いたいと思います。さて私たちの事業所も日頃からお世話になっております金融機関さまや商工団体さまとの連携をさらに深めて、大切なお客さまの事業繁栄と地域発展のために貢献していきたいと思っております。

特に力を入れる業務は(一つ)相続、事業承継、M&A業務 (二つ)経営改善、経営計画、補助金、医業コンサルなど経営支援業務 (三つ)DX支援業務です。

正月にテレビで箱根駅伝を見ていたら、優勝した青山学院大学の**原晋監督**の方針(スローガン? 聞き逃しました)は、「**明るく！元気に！前向きに！**」だと言っていました。それを聞いて、「へえ～、俺と一緒に」と私はうれしくなりました。私の開業以来のモットーは「**明るく！前向きに！元気よく！**」だからです。よ～し今年も「**明るく！前向きに！元気よく！**」前進するぞと、気持ちを強くして、また自戒を込めながらこの文章を書いております。

下記の写真は、私の三男坊が昨年末京都旅行の土産として買ってきてくれた土人形の日本最高峰である**伏見人形の十二支**

の龍です。ずんぐりむっくりした龍ですが、愛嬌のあるかわいい郷土玩具です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



「いよいよ始まる！鹿児島県協会のDX元年」

向江 隆行

世の中は今あらゆる部分でDXが叫ばれています。我々診断士の支援に求められる部分でもDXやデジタル化に関する部分が増えてきているのではないのでしょうか？その中で我々診断士協会の業務運営に関しても、世の中の流れにキャッチアップしていくためにKintoneを使った業務改革が始まります。

◆ Kintone とは何か

Kintoneとは、サイボウズが提供するノーコードプラットフォームです。ノーコードとは、プログラミングやコーディングをせずに、ドラッグアンドドロップや設定画面などでアプリケーションを作成できることを意味します。Kintoneを使えば、簡単にデータベースやワークフロー、ダッシュボードなどのビジネスアプリを作成し、チームや組織で共有できるようになります。また、APIや外部サービスとも連携できるので、柔軟に業務改善やイノベーションを行うことができるようになります。

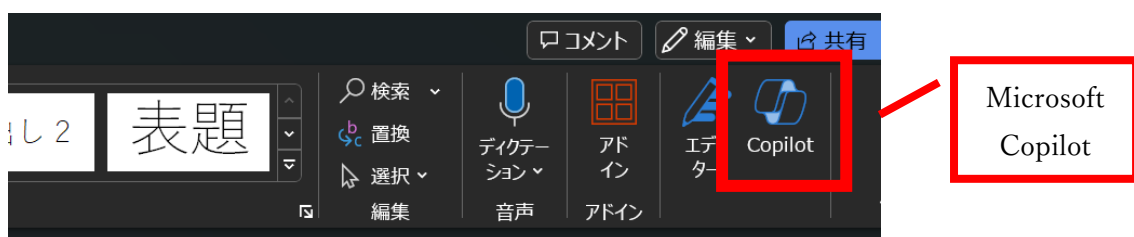
◆ 鹿児島県中小企業診断士協会がKintoneでできること

鹿児島県中小企業診断士協会は、Kintoneを使って以下のようなことができると思います。

- 会員管理や会費支払い状況確認などの事務処理を効率化する。
- セミナーや研修の申込みや受付、アンケートなどのイベント運営をスムーズにする。
- 診断士が支援する中小企業の課題やニーズ、成果などのデータ集約、分析や可視化。
- 診断士のスキルや経験、専門分野などの情報を共有し、相互協力や仕事紹介を促進する。

まずは、理事会で検証し、さらに勉強会などにおいて会員の皆様のニーズなどをヒアリングした上で、全会員での利用につなげていきたいと思っています。

ちなみに、「Kintoneとは何か」と「鹿児島県中小企業診断士協会がKintoneでできること」の部分は今はやりの生成型AIを活用して作りました。



「 鹿児島県の優秀な人材の流出を止められないか 」

鮫島 省吾

4年前から産業支援センターの専門調査員として企業巡回を担ってきた。訪問先の企業は、製造業が多いが、鹿児島県にもこんな素晴らしい企業があったのか、と驚くような企業が少なくな。訪問先企業に自社の課題をお聞きすると、「人手の確保」と答える事業所が非常に多い。採用の募集を行っても、応募が無く、お手上げ状態であるという声は、特に小規模な事業所では深刻なものである。応募者を増やす正攻法としては、待遇面を含めた採用条件を魅力あるものにする事だろう。しかし、少子高齢化が進むと共に、鹿児島県から若者が流出して働き盛りの人口が減少し続けるという根本的な問題があり、企業努力では解決できない側面もある。

日本国全体としては、少子高齢化に真っ向から取り組む戦略が必要であるが、それは国に任せるとして、鹿児島県としては人材の流出を抑制防止する策を検討し実行する事が責務ではないだろうか。皆で知恵を出し合い、特に若い優秀な人材が鹿児島にとどまり、将来はその優秀な人材が中心となり鹿児島の産業の発展に寄与する構図を作る必要があると考える。

この考えに基づき、今回、私が考えた対策は以下の二点である。

一つ目は、小中高生の若い年代から、わが故郷が廃れることなく故郷の繁栄隆成に貢献する意識を植え付ける事である。大学進学希望者を一例にとると、私もそうであったが、大学に進学するまでは、自分が将来どのような職業に就くのかを明確に意識する人は多くない。県外に進学してからでは、鹿児島の状況や県内企業についても知る機会が少なくなり、鹿児島県内での就職は難しいという結論に至ってしまう。それを防ぐためにも、早い段階で、自らが故郷に貢献する事を意識付け、鹿児島にも素晴らしい企業がいっぱいある事を知っていただく事が必要だ。

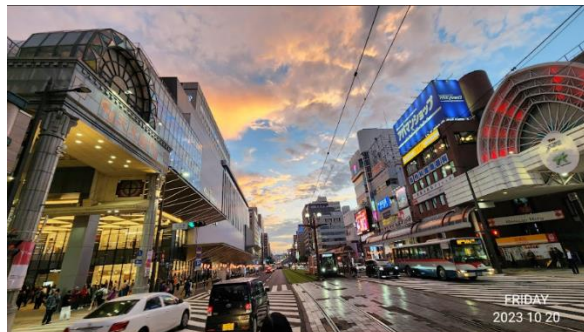
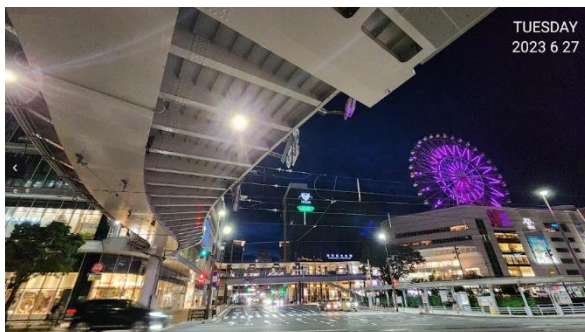
例えば、進学予定の高校生に県内の優良企業の見学並びに説明会を開き、県内にもこんな素晴らしい企業がある事を知ってもらい、自分がそこで活躍するイメージを持っていただく。県都では、鶴丸、甲南、中央等の進学校に新日本科学を知っていただく、地方でも加世田高校にエルムを、曾於高校にマトヤ技研を知っていただく。もちろん、小中高生でも知っている放送局、新聞社、銀行等に就職するためにこうすれば良いんだよ、と教えてもよいだろう。県内で色々な職業や企業で働くイメージを持ってもらう事が、鹿児島に留まる又は帰ってきてもらうための一つの解決策になるのではないだろうか。

二つ目は、遠隔でも現地と対等に機能できるテレワークのような形態で十分業務ができる優良企業の事業所を県内に誘致する事である。最近では PWC コンサルティングが鹿児島で働ける事を打ち出して、人材採用の募集をかけている。IT、ソフトウェアを核にした事業を行う企業であれば、遠隔でもネットワーク環境さえあれば現地と遜色ない働きができる。事実、私が定年前まで勤めていた鹿児島市のソフトウェア開発企業の社員に聞くと、コロナが収束した現在でも、1年に一回ぐらいしか出社しておらず、それ以外は在宅勤務であるという事であった。そのような遠隔でも仕事ができる企業に、優秀な人材を獲得できるチャンスが広がる特典を提供する事により、鹿児島に進出する事を後押しできないだろうか。

例えば、鹿児島に進出していただければ、県や市が率先して、その企業を優良企業として、優秀な人材やその親御さんに PR するという特典を設ける。これにより、優秀な人材を必要とする企業と鹿児島の間に Win-Win の関係を構築する。U ターンしたい社会人にも、まだ学生で将来鹿児島で働きたい少年少女にとっても、満足できる就業の場を広げられるのではないだろうか。

以上が、私が考えた対策であるが、県民全員で知恵を出し合い、より良い対策を講じて、鹿児島の将来を明るくものにできれば、と切に思う。

~~~~~ 鹿児島 夜景 COLLECTION 2023 ~~~~~



(撮影:瀬戸口 晴子)

「見える化は改善の第一歩」

奥 浩昭

経営診断や経営計画を策定する過程で最初にトライすることが現状把握と現状分析ですが、ほとんどの中小企業では予算書もなく事業データも見えないため、定性的な仮説から方策展開せざるを得ない状況に陥ります。事実(データ)に基づいた現状分析と要因分析をしないと真の方策展開ができず、仮に対策をしてもその有効性や改善の進捗状況もわからないことになり学習効果も得られません。

企業が成長・発展するためには、経営計画の実行力が重要であり、この管理フレームワークがPDCAサイクルです。これを回すためには、予算や管理指標等との予実差の見える化が必要であり、「見える化は改善の第一歩」になります。

見える化ができると、企業の置かれている外部環境や内部環境の変化がデータで捉えられるようになり、確実なアクションとリスクマネジメントにより事業の成果である利益の最大化と資本の充実につながります。

見える化のツールとしてデジタル化は欠かせません。日常の業務の中で自然とデータが収納され、経営基幹職が必要な時にどこからでも予実差を確認し指示できる体制が必要です。これを支援するために、今年は「見える化」のツールづくりに挑戦します。具体的には引き合い、見積、受注、調達、生産、納入、売上、請求までのモノづくりプロセスをデジタル化し、予算管理や原価管理により予実差の見えるプラットフォームを構築し、各企業仕様にモディファイして提供することで社会貢献したいと思っています。



「セミナーコンテストグランプリへの出場」

武田 清孝

2023年4月16日(日)、京都ロームシアターで全国各地のブロック予選を勝ち抜いた7名による10分セミナーの出来栄を競うコンテストが開催されました。セミナー講師の甲子園「セミナーコンテストグランプリ大会」です。セミナーコンテストとは「人と世界を輝かせる講師輩出」を目的に、2007年2月に大阪でスタートしたイベントで、2023年で16年目を迎えました。主催は一般社団法人パーソナルブランド協会(PBA)で、様々な分野のプロフェッショナルが、自分の体験をもとにオリジナルセミナーを作り、1人10分で発表し順位を競います。

私は、2022年11月に開催された第1回セミナーコンテスト鹿児島大会で優勝し、福岡大会優勝者とのブロック予選では2位でしたが、全国大会の前日に開催された最終予選で2名同時優勝を果たし、晴れてファイナリストとしてグランプリ大会に出場いたしました。



今回、私が発表したテーマは、「お客様との絆で創る、とっておきのロコミ集客術」。

地方の商店街で来街者が減って落ち込んでいる店主を励ますことを目的にお客様との関係性を高めようという内容です。残念ながら入賞はできませんでしたが、全国から京都ロームシアターに集まった約300人の方や、オンラインで視聴している数多くの方へ向けて発表することができました。コメンテーターの先生からは「10分間笑顔の持久力があって素晴らしい」と評価していただきました(セミナーの内容はさておきですが。)

伝えたいことを10分間にまとめる作業は、非常に苦しいものがありました。誰に何を伝えるのかを何度も何度も作り直し、最終的に仕上がったのは、グランプリ大会出発日の朝でした。

それでも、このセミコングランプリに出場したことでセミナー講師として活躍している全国各地の方々につながる機会を得ることができました。この経験は貴重です。皆さんもチャレンジしてみませんか？第4回セミコン鹿児島大会は7月6日に開催が決まっており、現在、出場者募集中です。出場資格は、セミナー講師としてデビューしてから10年以内の方で、参加申し込みは右記URLよりできます。 <https://seminarcontest.com/area-entry/kagoshima>
また、セミナーコンテストのHPは右記の通りです。 <https://seminarcontest.com>

「地震予知は当たらない」

浦島 和衛

年初早々能登半島地震(震度 7、M7.6)が起きてしまった。まだ被害規模が明らかになるには時間が掛かると思うが、半年以上群発地震が続いていたにも拘わらず「今後 30 年間に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率」地図では 3%以下の確率の地域となっていた。

1965 年からの松代群発地震を契機に 1969 年に地震予知連絡会が発足している。私が就職した 1973 年には東海地震が話題になっていた。大阪が本社の会社だったため地震が来ないと言われていた関西出身者が多く、関東勤務を嫌い配属時に「俺を関東勤務にして地震があったら会社は保証してくれるのか」と悪態をついていたのを思い出す。私も 1983 年に横浜転勤になると、一人ひとりに避難手帳やヘルメットが支給され、避難訓練もこまめに実施されていて大阪との違いに驚いた覚えがある(実際、避難訓練中に震度 4 の地震が起き、避難訓練が中止になったのも驚きだった)。

1995 年の阪神・淡路大震災(M7.3)は大阪で中小企業診断士 3 次実習中に遭遇した。それまで震度 6 以上(?)は速報できず(話合いで決める)、「震度 5 以上」との報道だったと思う。私以外の実習生は全員地元だったため、17 時を過ぎると皆、毎晩連絡のつかない親戚探しに日本海回りで神戸市に捜索に出掛けていた。(大阪ー神戸間の交通マヒのため。神戸からは大阪近くまで徒歩で買出しに来ていた。「こんな実習をやってる場合か」との意見もあった。) 1996 年から 10 段階の震度に見直され、震度 5 弱・強、6 弱・強、7 が速報できるようになって最初の地震が 1997 年 3 月 26 日(震度 5 強、M6.6)、5 月 13 日(震度 6 弱、M6.4)の鹿児島県北西部地震である(後日、二つとも本震とされたが 1 回目から 1 ヶ月ほどはパソコンのディスプレイを床に降ろして帰宅していたが、余震が減って油断した 1 月半後の 2 回目ではもの見事に転げ落ちてしまった)。幸い電気も水道・ガスも止まらなかったのも表向きは何もなかったように見えたが、家の中は滅茶苦茶で精神的にめげることが多かった。

2016 年の熊本地震(震度 7、M7.3)の時は 1 週間後に西日本シニアサッカー大会(鹿児島会場)をひかえ 1 年前から準備をしていたが、熊本市周辺の交通が途絶したため中止となった。阪神・淡路大震災の時にも感じたことであるが、地震の被災者はできるだけ速やかに被害の無かった地域に搬送すべきである。被災地にいる限り救助や復旧の足手まといにならざるを得ない(自治体からの支援がいつ始まるか気になるだろうが)。木造住宅でつぶれた家はぐしゃ

ぐしゃ(瓦も粉々)であり、何か取り出せたとしてもほぼ使い物になるとは思えない。鉄筋コンクリートのビルでも1階が駐車場で柱しかないとつぶれていた(いかに壁が大事か)。

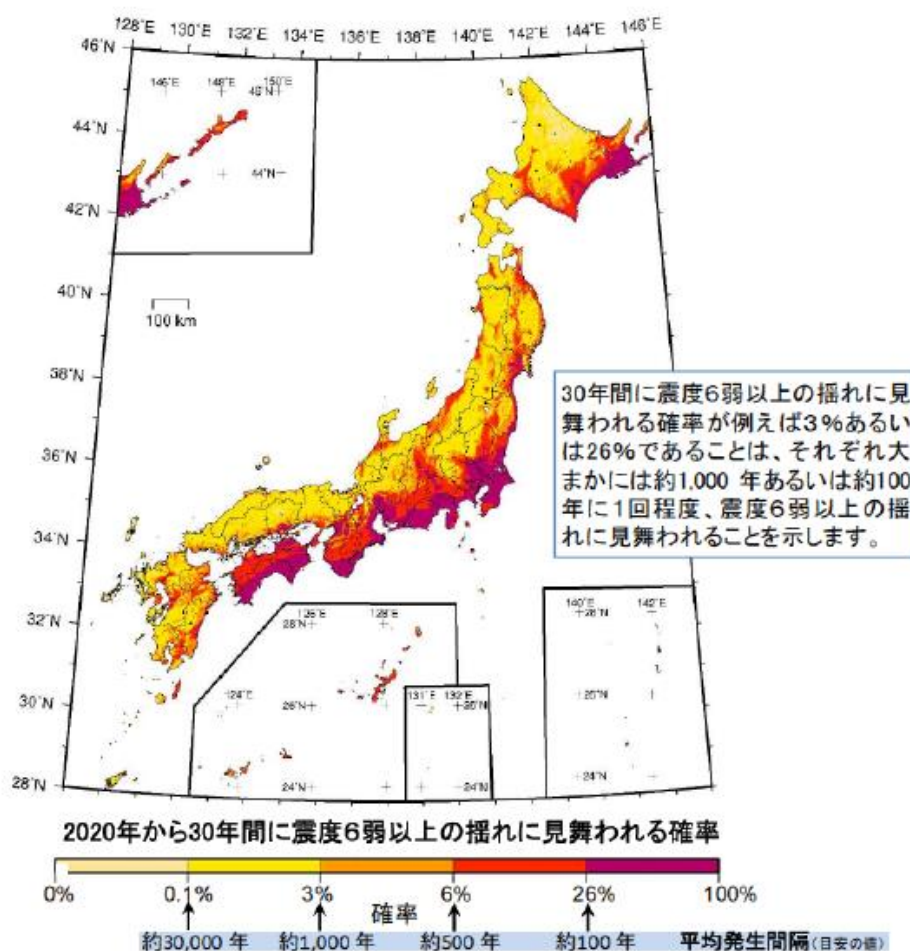
1983年以降、震度6以上の地震は十数回あったが全て確率3%以下の地域である。即ち、強い地震は確率の低いところで起きている。災害大国の日本に住むには耐震性の高い建物にするしかない。武田邦彦氏(中部大学特任教授)によると震度6以上では国内の原発は100%被害が出ているという。

■ 日本国内で強い揺れに見舞われる可能性

下の図は、「2020年から30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」を示した地震動予測地図です。なお、図に示されている確率は、「その場所で地震が発生する確率」ではなく、「日本周辺で発生した地震によってその場所が震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」です。

地震動予測地図や、地震動予測地図を作成する際に用いられるデータは、地域防災対策、耐震設計、損害保険の料率算定などに用いられているほか、文部科学省では学校施設の耐震化の検討への活用事例があり、国土交通省では社会インフラ施設の耐震化事業の緊急度の検討に活用されています。

下の図を見ると、世界的に見て地震による危険度が非常に高い日本の中でも、場所によって強い揺れに見舞われる可能性が相対的に高いところ(赤紫色)と低いところ(淡黄色)があることがわかります。太平洋側で確率が高い傾向が見られますが、日本全国で強い揺れに見舞われる可能性があるのは前頁で述べたとおりです。なお、震度6弱以上の揺れがどのような揺れかについては、5頁を参照してください。次の頁では、地震動予測地図からわかることや、図を見るときにの注意点について説明します。



オススメ新スキル第2弾！「稲盛アカデミー 経営哲学講座」

瀬戸口 晴子

昨年の会報で、鹿児島大学で週末に学べる「焼酎マイスター」養成講座をご紹介しましたが、今回は同様の社会人講座「稲盛経営哲学プログラム」をご紹介したいと思います。中小企業診断士の皆様には、むしろこちらの方を先にご紹介すべきだったかもしれませんね。焼酎マイスターのような資格ではありませんが、履修証明講座のため、私の最終学歴は玉里自動車学校から鹿児島大学になりました！（笑）

2005年、鹿児島大学内に「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った21世紀型スキルを備えた人材輩出」を目標として、工学部OBである稲盛和夫氏および京セラ(株)の寄付により設置された「稲盛アカデミー」。その地域貢献事業の一つとして開講された「社会人向けプログラム」の第1期生として、2013年の毎週土曜、4半世紀ぶりのキャンパスライフを満喫することが出来ました。（実は、焼酎マイスター養成講座受講は、この6年後の2019年＝7期生でした）



稲盛アカデミー



稲盛経営哲学講座



お恥ずかしながら当時、稲盛和夫名誉アカデミー長については「鹿大出身」「アメーバ経営」「出家」「JAL再生」といったキーワードしか存じあげませんでした。百数十時間の様々な講義から期待以上の学びを得ることが出来ました。起業家でも経営陣でもない1社員の私にとって、氏の人生の軌跡を学ぶことから貴重な疑似体験をさせていただき、全国の稲盛研究最前線の教授陣から多くの知見や視点を獲得することが出来ましたし、様々な業種や立場の同期生との交流も楽しめました。

現在は12期生が3月に修了式の予定で、OBOGは既に400人を超えます。5年ほど前に、修了生有志で「稲盛アカデミー倶楽部」を設立して、学びや交流の機会を継続しています。昨2023年の

総会では、自治体では初めて稲盛フィロソフィを採り入れて様々な実績をあげられている池田宜永（たかひさ）都城市長に大変刺激的なご講話をいただきました。（鹿児島県の自治体では未だ動きが無いようですが、若い職員が聴講に来ていました。）さらに盛和塾～盛経塾に進んだ同期生もいたり、勉強会に相互参加したり、私も世話人の一人として 地味に地道に活動を続けております。



現在のプログラムは、『稲盛経営哲学の成り立ち』、『稲盛和夫の歩み』、『稲盛和夫の経営問答』、『実学—経営と会計—』、『アメーバ経営論』、『実践経営論』、『稲盛フィロソフィ』、『組織運営とリーダー論』の8つの科目について、計90時間の講義のようです。社会人受講生の負担軽減のためか1期生の頃に比べて講義時間が 2/3 位に減り、逆に学費は補助金減や収支見直しなどで倍増している印象です。おそらく次の13期生は 今年5月頃の募集かと思います。（定員と選抜があります）教授陣やカリキュラムも徐々に変わるため、好奇心旺盛&記憶力薄弱な私は5期も再受講しました。

社会人向け講座「かごしまルネッサンスアカデミー」には、他にも HACCPや林業マイスター講座などありますが、何といても「焼酎」と「稲盛アカデミー」は他大にはない鹿児島大学ならではの！どちらも、コロナ禍でのハイブリッド開講では県外からのオンライン受講申込が殺到したようですが、現役鹿大生と共に学食や図書館が楽しめるのは鹿児島県民の特典！リアル通学をオススメします。



「GX推進と省エネ」

久留 正成

地球温暖化防止については、日本では一部を除き多くが後向きだったように思います。自治体では、環境省が出す「地球温暖化対策推進法」等に基づく基本計画等は策定するものの、PDCAが回っていき目標未達のところが多いように思われました。

国際企業では、世界の企業・金融機関等と付き合うには地球環境問題は避けて通れない問題と真面目に取り組んでいるところが多いですが、社内的には環境部門の位置づけは低かったように感じます。

中小企業では、取引条件で要求されるとか入札等で優遇される等のメリットがない限り、光熱費の経費削減程度しか取り組んでいないのが実態です。稲盛和夫氏がよく話されていた「企業倫理」「利他のこころ」の不足を感じます。

2020年10月に当時の菅総理が「2050年カーボンニュートラル宣言」してから、ようやく日本も本格的に動き始めた気がします。

経済産業省が環境と経済の好循環を目指し「グリーン成長戦略」を策定し、昨年に「GX推進法」・「GX脱炭素電源法」を制定、ようやく総合的な動きが始まりました。

ただ、30年前は世界のトップクラスと言われた環境技術・製品等は少なくなり、今や日本は世界環境会議では「化石賞」をもらうくらいの状況で、世界に1周遅れとも言われています。

鹿児島県は2年前からゼロカーボン推進のため省エネ設備導入補助金(300万円)等で中小企業の取組みを支援しています。補助金の必須条件である「省エネ診断」等で中小企業を支援していますが、補助金がある事を知らないところが多く、まだ予算が余る状況です。

企業では業務用エアコン・照明の使用が多いですが、業務用エアコンでは古いものを更新すると約30%、LEDに更新すると電球や水銀灯に比べ約90%・蛍光灯に比べ約50%電気使用量が削減できます。

今や、「地球温暖化時代」から「地球沸騰化時代」に突入したと言われています。

エネルギー価格も高い状況が続き、この状況は変わらないと思われまます。

2024年度も同じようなゼロカーボン・GX推進のための補助金が出ると予想されます。

皆さんのお客様に、補助金を活用した省エネ設備更新を勧められたらどうでしょうか？

「令和6年 年頭雑感」

黒坂 和民

多くの国民がコロナ禍からの本格的回復を期待した新年でしたが、元日早々能登半島を中心とした大地震が勃発しました。開けて2日には羽田空港に於いて被災者への救援物資を運ぶ自衛隊機と390名近い乗員乗客を乗せた日航機が、滑走路で衝突炎上する衝撃的事故が発生しました。この事故に抛り自衛隊機乗員6名の内5名の方々が死亡しました。一方、日航機の乗客乗員は奇跡的に全員無事が確認されました。羽田の事故は能登地震が無ければ起こり得なかった関連事故です。尚、能登地震は約250名の死者行方不明者と19,000人近い被災者が不安な避難生活を強いられています。元日、2日と相次いだ災害、事故で新年の気分は一掃されたと思います。紙面を借りて犠牲者の方々への哀悼と被災者の皆様へお見舞い申し上げます。

本年は昨年が増えて内外共に混乱が予想されますが、昨年注目された話題を振り返ってみました。政治面では不祥事に抛る閣僚の相次ぐ辞任などで、支持率20%台と岸田政権に対して国民の政治に対する厭世観が際立った年でした。

一方、才能豊かな若者、大谷翔平、藤井聡太両名の活躍が連日のように紙面を飾りました。付言として取り上げたいことは、両名と並び称される才能としてプロボクサーの井上尚弥の存在です。歴史ある米国の専門誌「ザ・リング」が格付けするランキングで日本人として初めて世界1位の評価を受けました。彼はバンダム、スーパーバンダムの2階級で4団体統一王者を達成、アジア人初、史上2人目の快挙です。プロ戦績は、26戦26勝(23KO)でKO率は9割近くと、パワーはヘビー級3団体統一王者となった、マイク・タイソン級と評されています。又、世界王座戦21連続勝利で彼が当初目標とした、具志堅用高の防衛記録13回を大幅に更新しています。ボクシング界の巨人、マニー・パッキャオ、フロイド・メイウェザー・ジュニア、ゲンナジー・ゴロフキン、と並び評される存在となっています。

不祥事も続発しました。ジャニーズ、ビッグモーター、宝塚歌劇団、日大アメフト部騒動等、ワイドショーの絶好の話題となりました。組織は頭から腐ります。

世界に於いては、ウクライナに次ぎイスラエルの紛争が注目されました。改めて「戦争」の実態について、出口治明(立命館アジア太平洋大学学長)の誌上日本史講義から、太平洋戦争(世界第2次大戦)について抜粋してみました。大戦に抛る死者は軍人軍属230万人(内、餓死者140万人)民間人80万人との事です。特筆すべきは戦死者の約6割が餓死と言うことで

す。特攻作戦では、陸海軍併せて 4,615 人が戦死とされています。又、航空特攻の出撃機 3,310 機の内、目標に命中したのは 11.6%だったということです。

「何のための戦争だったのか」時の首相東条英機は開戦直前、天皇に戦争の大義名分を問われ「目下研究中です」と答えたそうです。尚、1941 年 12 月 8 日の宣戦の詔書には米英対日包囲網への「自存自衛」の為と述べられています。北朝鮮の首領が自国の核開発の目的について同様に答えています。ちなみに開戦時米国の国民総生産は、日本の約 12 倍、粗鋼生産量も約 12 倍との事です。兵站の軽視で多くの餓死者を生み、玉砕や特攻の称揚に盛られる精神主義で凌ごうとした日本は、壊滅に追い込まれるしかなかったということです。もし原爆投下が無かったら、無自覚無能な統率者の指揮下で、玉砕本土決戦を強いられ 1 千万人以上の戦死者が記録されただろうと考えます。戦争とは、瓦礫とお墓と絶望感の大量生産システムです。

悲惨な出発となった新年ですが、株価はバブル期以降で最高値を更新、36000 円台に迫っています。その要因は企業が資本効率を狙った自社株買いに取り組み、その姿勢を評価した海外勢の買越額が 10 年振りの高水準となっているようです。一方、企業倒産が急増、特に小企業の倒産は昨年の 4 割近く増加し、中でも飲食業は 6 割近い増加です。返済が始まったモロトリアム、ゼロゼロ融資、又、昨年導入されたインボイス制度の影響も注目です。

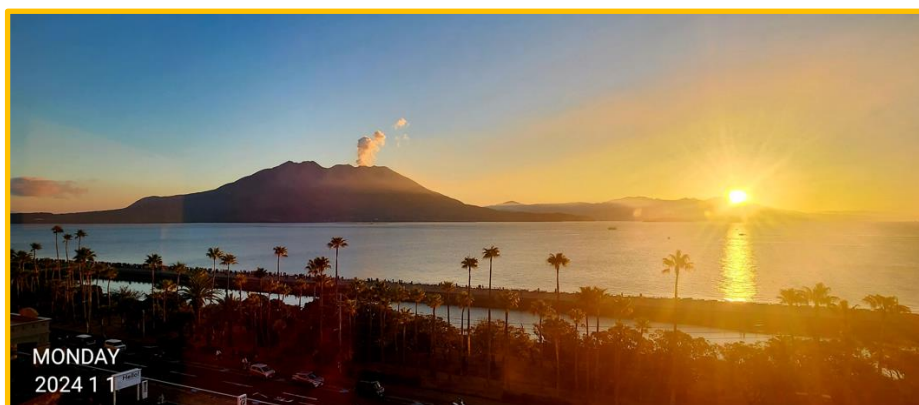
鹿児島県に関して昨年は、国体の開催で官民一体感が醸成されました。本年はインバウンドの完全復活が期待されます。

海外に於いては、米国で大統領選挙が控えています。民主、共和のどちらに転んでも分断に拍車がかかることは明白で、特に自己中心で善悪の判断ができないトランプ元大統領の去就、混乱を生む種として最大の関心事です。ウクライナ、イスラエルの紛争解決も定かでなく、中ロ北朝鮮が連携を深めるなど、内外共に混乱の度合いが深まる事が心配される新年です。

「浜の真砂が尽きるとも世に紛争の種は尽きまず」五右衛門の心境となります。

末筆乍ら会員の皆様の健康と活躍を祈念申し上げます。

令和 6 年 1 月 18 日



ウェルビュー鹿児島
5階からの初日の出☆
龍が顔を出したよう♪
(瀬戸口 撮影)

【 令和6年度 活動予定 】

当協会では、令和6年度に、会員向けの以下のイベント事業を予定しております。
一般向けの公開イベントもありますので、詳しい案内については、当協会のホームページ(<https://www.shindan-kagoshima.com/>)の最新情報をご覧ください。



イベント	開催予定日	場所
第13回定時総会 & 懇親会	令和6年 5月25日(土)	ホテルレクストン鹿児島
理論政策更新研修(鹿児島地区) * 中小企業診断士の資格保有者 全てが対象	令和6年 8月3日(土)	城山ホテル鹿児島
秋季ゴルフコンペ & 懇親会	令和6年 9月28日(土)	未定
診断士の日イベント * 一般公開予定	令和6年 11月上旬頃	未定
新年会 & 研修会	令和7年 1月25日(土)	未定
春季ゴルフコンペ & 懇親会	令和7年 3月1日(土)	未定
スキル向上のための研修会	令和6年度内(4~5回)	マークメイザンほか
令和6年度会報の発行	令和7年 2月頃	

【 会員名簿 】

< 役員 >

会長 今別府 忍、副会長 瀬戸口 晴子(イベント・会報担当)、専務理事 森 毅憲(会計担当)
理事 武田 清孝、向江 隆行(IT担当)、福岡 正人(研修担当)
監事 岩元 耕児、浦島 和衛

< 正会員 >

有川 真哉、今別府 忍、岩崎 雄司、岩元 耕児、浦島 和衛、江原 厚生、奥 浩昭、
河野 正文、久保 武志、黒坂 和民、外戸口 孝一、小島 晋一、児玉 健矢、小園 一晃、
小林 昭文、佐伯 敏雄、鮫島 省吾、嶋崎 浩二、新屋敷 辰美、瀬戸口 晴子、園山 圭美、
田上 知樹、武田 清孝、津田 輝久、東郷 浩泰、東條 公平、中筋 一郎、中畑 寿子、
長友 翔、庭月野 康、東園 深水、久留 正成、平田 哲郎、寛山 一郎、福岡 正人、
福留 秋男、細川 正敏、堀切 研一、前堂 恵斗、丸野 桂太郎、向江 隆行、餅田 淳一、
森 毅憲、矢野 真吾、山下 弘文、山下 純二、吉満 秀明 (2024/2/20 現在、五十音順)

【 編集後記 】

令和5年は新入会員として「若い方」や「県外でご活躍の方」など多彩なメンバーが増え、総会・新年会と盛りあがりました。新体制で年5回の研修会+直後に懇親会を行い、学びや交流を深める機会も増えました。参加出来なかった方も会報を通して情報共有いただければ幸いです。Facebookグループも地味に運営中ですので よろしくお願ひします。(瀬戸口 晴子)